

# Paper Dome Letter

台湾・神戸まちづくり交流報 創刊号 2007/01/17 発行

## Paper Dome・新故郷

### 海を渡って再生するペーパードーム

2005年1月、台湾の被災地から仲間が招待を受け、阪神・淡路大震災10周年事業に参加した。そして神戸市長田区野田北部を訪れたとき、初めて紙の教会「たかとりペーパードーム」にめぐり合い、それが地震後10年間地域の交流や集会のセンターとしての役目を果たし、改築のため解体されようとしていることを知ったのである。

「こんなに記念的価値のある建物を台湾で再生することはできないだろうか。両被災地をつなぐ友好の懸け橋にできないだろうか。」訪問団団長である新故郷文教基金会の廖嘉展董事長にこのような考えが浮かんだ。以後、たかとり教会や日本の友人の皆さんとの共同の取り組み、たかとりペーパードーム台湾再生計画は始まったのである。

この計画を推進するため、2005年4月16日と17日、日本と台湾双方に推進委員会が設立され、台湾と神戸の復興まちづくり交流の扉を開き、瓦礫から復活する両地の意思を繋いでいこうとする計画が滑り出した。ペーパードーム再生の敷地は、新故郷基金会と台湾推進委員会が度重なる討論の結果、最終的に埔里鎮桃米里の新故郷自然生態休暇農場が選定された。

2005年6月6日から始まったペーパードーム解体作業は、10日間で終了、その後6月23日にはコンテナ船「国家」号に乗って台湾に向け出発、28日台中港に到着した。

たかとりペーパードーム台湾再生計画をさらに多くの人たちに知ってもらい、台湾と日本の震災まちづくり経験の交流を広げるため、新故郷文教基金会は建築家坂茂氏を特別招聘し、2005年11月27日台北で講演会「建築作品と人道主義行動」を開催した。そして台湾でペーパードーム再生計画を担当する邱文傑建築師と会談、設計方針の協議も行った。



Paper Dome の再生は台湾と日本の心を繋ぐ。左から新故郷文教基金会廖嘉展董事長、台湾邱文傑建築師、日本坂茂建築家、日本推進委員垂水英司。



遠く台南から来た成功大学建築科の学生ボランティア、パネルの会場設置に力を発揮した。

## 「愛と互助」 たかとりペーパードーム台湾再生起工式典

式典の前夜土砂降りの大雨に見舞われた会場は泥沼になったが、新故郷のメンバーや成功大学建築学科、暨南大学行政学科の学生ボランティアが、当日明け方から直ちに碎石敷き、パネルボード掛け、飾り付けを開始、多くの子供たちも力を合わせて会場の環境整備を行い、行事は順調に行われた。



菩提長青村の老人たちのユーモアのある踊りは、会場の拍手喝采を博した。

式典が始まり、学区内の桃源小学校児童節奏楽団の演奏で序幕、熱気がみなぎった。続いて日月潭邵族の杵音祝祷に移り、悠揚たる吟唱でペーパードーム再生の未来を祝った。

「夢みたい、神様が人の運命に挑むなんて  
目が覚めたとき、私は家や家族と離別する  
あ～ あなたがいるから、私は孤独ではない、私はさらに頑張れる  
あ～ あなたがいるから、私は元気で生き、あなたがいるから、私は孤独ではない」

10時30分、埔里のミュージシャン陳里維、廖嘉展と日本の河合節二代表団員が合唱した「あなたがいるから、私は孤独ではない」の歌声とともに、象徴的意味を込めた起工式典が始まった。台湾、日本の来賓30人が一人ずつ登壇、舞台上で一本一本小さな紙管を立てていった。これは愛と互助の基柱を象徴すると共に、各人の心を無形の橋でつなぐように、一本の調和の取れた円弧を描いた。柱が建て終わった後、全員が手に手を取って、一斉に歓呼した。台湾がんばれ！神戸がんばれ！それは感動的な場面となった。

### 感動、喜びそして責任を担って工事へ

南投県長李朝卿氏は来賓挨拶で、阪神・淡路大震災の被災地で建てられた紙の建築を南投に迎えることができたことは、地域やコミュニティの発展にとって、また今後両地域の交流や友好の増進にとって大いに助けとなるだろうと述べた。新故郷文教基金会廖嘉展董事長は式典挨拶で、この歴史的な工事を支援し関心を寄せていただいたすべてのの方々に感謝するとともに、「ペーパードームの再生へ、数え切れない感動、喜びそして責任を担って

2006年11月19日午前10時、新故郷文教基金会主催で「愛を互助」たかとりペーパードーム台湾再生起工式典が、喜びの雰囲気あふれる中順調に執り行われた。台湾、日本の両推進委員会のメンバーや諸々の来賓が参集し会場は盛り上がった。



日月潭邵族の杵音祝祷、ペーパードーム再生を祝福する。



陳里維、廖嘉展と河合節二代表団員が合唱した「あなたがいるから、私は孤独ではない」。歌詞に込められた助け合いの心が胸を打つ。



桃源小学校蔡鳳琴校長の指導による小小芭蕉舞、優雅な舞姿が式典に華を添えた。

私たちはさらに努力し、この場所を基点に、愛と互助の精神で、人と人、社区と社区を繋いで、復興、そして災難に対し勇敢かつ強靱な心で未来に向かいたい。」と述べた。

日本の推進委員会の代表で、当時野田北部でペーパードーム建設に協力した建築家でもある森崎輝行氏は、「私たち神戸の復興過程の経験でも、人と人の相互の助け合いこそが最も重要だったが、今日このように多くの人たちが集い、手をつないで復興を続けていく様子を見て、大変感動を覚える」と喜びを持って語った。

「この建築がこのような美しい所で生まれ変わり、人に喜びと感動を与えるよう、早く順調に完成することを願う」と森崎氏は日本側の祝意を述べた。

続いて、前921重建会執行長の陳錦煌氏、埔里鎮長の馬文君氏、建築師邱文傑氏などの来賓から、祝福と期待の挨拶があった。

今回の起工式典に参加したのは、野田北部まちづくり協議会会長の浅山三郎氏、同じく幹事長の河合節二氏、坂茂建築事務所の建築家平賀信孝氏、台湾・神戸震災被災地市民交流会幹事の井垣昭人氏、台湾まちづくり研究会代表の垂水英司氏、神戸新聞記者磯辺康子氏、及び、交通部観光局副局長の蘇燦洋氏、故宮博物院副院長の丁郁群氏、国家災害防救科技中心主任陳亮全氏、そして新故郷の董事、台湾の推進委員、桃米社区居民など台湾の社区の仲間たちである。

## 希望の種まき

続いて躍動する青春演目、桃源小学校児童による芭蕉舞、菩提長青村、暨大熱舞社が次々と出演、小学生の優雅な芭蕉舞姿、あるいは長青村の老人のユーモアある踊り、そして暨大の学生の熱っぽい躍動、これらはその場にいる人たちに活力を与えたのはもちろん、日本の仲間にも深い印象を残した。

1995年阪神・淡路大震災後、神戸でまちづくりに参加した仲間は、住民を励ますため「ガレキに花を」の運動を発案し、建物が撤去された空地に花の種をまいた。このたびの起工式典の最後に、台湾、日本の友人がともにペーパードーム予定地横の原っぱに希望を象徴する向日葵の種をまいた。

こうしてペーパードームは、人々の期待のなか正式に歩みをはじめた。

起工式典の後、新故郷文教基金会はペーパードーム建設地と全体敷地の整地や緑化工事を進め、現在法面にはすでに灌木、喬木、芝などが植えられている。続いてわれわれは台湾野百合を植え、ペーパードーム本体と相まって、自然、平和、生命力に満ちた空間を形成したいと考えている。



暨大熱舞社の青春の躍動、情熱と活力表現。



画家孫少英はペーパードーム再生の起工から完成までの全工程を画筆で記録する。



森崎輝行日本推進委員会代表は、ペーパードーム誕生から解体までの全記録を廖董事長に寄贈、廖董事長は台湾被災地の20社区の奮闘ものがたり「地動の花芯」を寄贈した。



自然、平和、生命力に満ちた空間づくりを目指し、ペーパードーム敷地周りは既に緑化に着手。

# Paper Dome Letter

台湾・神戸まちづくり交流報 創刊号 2007/01/17 発行

## 「新故郷記念米」チャリティ販売、 ペーパードーム再生建設基金募集

2006年8月10日、新故郷基金会は桃米の新故郷自然生態休暇農場で台農71号益全香米を植え、ここ20年水稻を植えてこなかった桃米では、稲穂が波打つ期待が高まった。

新故郷は農薬を使わず、化学肥料を撒かない自然農法を堅持し、時間に従って、生態田んぼにある植物は次第に成長していった。

最初のころ、地域の長老たちの多くは、「稲を植えるなんてバカな。みんな『厝鳥仔』（すずめ）に食べられてなくなるよ」と警告してくれた。しかし、稲穂が黄色くなるまで、おそらく桃米のすずめは20年来稲を見なかったのも、お米の滋味を忘れたのだろうか、私たちの稲田は鳥の被害を受けなかった。これが私たちの生態米の品名を「鳥忘食」とした由来である。

2006年12月10日午前、新故郷生態田で刈入れ祭を行ったが、新故郷のメンバー、埔里工作坊、埔里の大学生、桃源小学校の子供たち、社区居民たちが一同に参加、にぎやかに盛り上がった。さらに天日で乾し、籾殻を取り去って、鳥忘食生態米は市場に出すことができたのである。

こうして新故郷がはじめて生産した稲米は、まずチャリティ販売用に1キロ包装の記念米を作り、1袋あたりチャリティ価格1000円で販売、さらに、精選5キロ入りの「鳥忘食生態米」をネットオークションでチャリティ販売し、すべてペーパードーム再生基金として活用する予定である。



ペーパードーム再生建設基金募集のため「新故郷記念米」  
としてチャリティ販売

発行／たかとりペーパードーム台湾再生計画推進委員会

日本事務局 たかとりコミュニティセンター

G/o ckl'kqfkegB ve339Qti

台湾事務局 新故郷文教基金会

G/o ckl'kcpf B j qo grcpf Qti 0y

# Paper Dome Letter

台湾・神戸まちづくり交流報 創刊号 2007/01/17 発行

## 起工式で見てしまった、 廖さんの潤んだ目

野田北部社造協議會事務局 河合 節二

「台湾－神戸・被災地市民交流会」により、一昨年震災5周年の台湾を訪問し、昨年震災10年の神戸に、訪問先の台湾市民をお迎えし交流を深めた。そして、そこから「ペーパードームたかとり」の再生計画が始まった。

「ペーパードーム－台湾再生プロジェクト実行委員会」を組織し、広く募金活動を行い、全国からの心温まる支援を得て、昨年6月ペーパードームは神戸港を旅立ったのである。

去る11月19日。南投県埔里市桃米村で、ペーパードーム再生の起工式に招かれ、6人の実行委員の一人として参加した。1万㎡もの広大な敷地に、ペーパードームと付帯施設の建設が始まったのである。

被災地市民交流が、こんなかたちで展開するとは、参加した実行委員も想像していなかったと思う。

それにしても今回の行程は、恐ろしいまでに計算され尽くしていたのではないかと、同行の面々との話である。行く先々で偶然にも関係者と出会ったり、炎天下で「帽子があったらな～」と思えば「そこのお店で好きなものを持って行ってください」の声。何かおかしい・・・「帰りに紹興酒みやげに買って帰ろう！」と言うと「ご用意しています」との返事。むむむ「これはどうもいらん事、言われへんなあ～」（-\_-;）と。おもてなしの領域を越えるが如く歓待していただいたことに感謝すべきなのだが、とても不安な気持ちが交錯した。

それもそのはず、こちらからのおみやげは「たかとりコミュニティセンター」で販売している「南木曾から神戸へ風呂桶セット」3個だけなのである。台湾大学の陳亮全先生の機転で桶の裏に「携手向前・神戸から桃米へ」と書いていただき箔を付けていただいたが、果たしてこれでいいのだろうか？ということだったが、これも見事に杞憂にされてしまった。



新故郷基金会は、新たかとり教会の落成記念酒として、浅山三郎会長に紹興酒を託した。

お招きいただいた「新故郷文教基金会」代表の廖嘉展さんに、浅山さんが贈呈したとき、廖さんの目が潤んでいたのを私は見てしまった。

来年、台湾震災8年となる9月21日。ペーパードームの完成記念式典が行われる。今から参加の予定をすることとなった。今度はおみやげを心して準備しようと思っている。

ほんと、台湾の人たちは恐ろしいほどに、いい人たちでした。



浅山三郎会長（右）から日本の贈り物を手渡された新故郷基金会の廖嘉展董事長（中）は、感動がこみ上げる。



発行／たかとりペーパードーム台湾再生計画推進委員会

日本事務局 たかとりコミュニティセンター

E-mail : office@tcc117.org

台湾事務局 新故郷文教基金会

E-mail : land@homeland.org.tw

# Paper Dome Letter

台湾・神戸まちづくり交流報 創刊号 2007/01/17 発行

## ペーパードーム再生の設計

国を跨いだ共同討論、これが今回ペーパードーム再生における最大の特徴の一つといえる。台湾では、私たちは優れた建築師である邱文傑氏に新たな建設地の企画及び設計を要請した。彼は、1年越しで度重なる討論と7次の設計を経て、最終的に原設計者の建築家坂茂氏の同意も得て、設計案を確定した。

ペーパードームに付属する建築は、C型鋼を曲げて作った線材を使った強靱でかつ柔構造のものである。そして、埔里鎮桃米里の田んぼの中、桃米溪を隔てて桃源小学校と相對する位置にあって、静謐にして高雅な趣を持っている。

2006年11月19日正式起工後、2007年9月21日落成の予定。その後、再生された場所は台湾と日本の震災復興まちづくりの交流拠点、台湾社区营造の集会所、及び社区見学や社区産業・農産品普及の重要基地となる。



ペーパードームの台湾での再生、新たな敷地での計画と設計は、邱文傑建築師が担当する。

発行／たかとりペーパードーム台湾再生計画推進委員会

日本事務局 たかとりコミュニティセンター

E-mail : office@tcc117.org

台湾事務局 新故郷文教基金会

E-mail : land@homeland.org.tw